改訂版

減らそう犯罪

ぼくもわたしも　減らそう犯罪！

地域安全マップを作ろう

～ 作 成 の 手 引 き ～

広島県警察本部　生活安全企画課

地域安全マップを作ろう

あなたは学校周辺の危険な場所を知っていますか？
自宅が学校に近い場合は，様々な情報を持っているかもしれませんね。事件が起きそうだと不安になる場所をいくつかあげられるでしょう。このような危険な場所を，お友だちや先生と歩きながらチェックし，「ここが危ない！」というポイントを地図に書き込み，「**地域安全マップ**」を作りましょう。

○　*心構え*

危険な場所を探すのは，逆に安全な場所を探すのが目的です。そのためには，自分がすでに知っている知識以上のものを集める必要があります。そのために，商店

街のお店の方，近所にお住まいの方，学校の先生方や校務員さん，交番のおまわりさんなど街の人々にお話を聞いて，あなたの街を見直してみましょう。地図づくりによって，学校周辺でいろんなことを発見できるし，顔見知りが増えます。その上，いつの間にか危険回避能力が高くなりますから，積極的に地図づくりを楽しんでください。さあ，危険な場所は，回避するか，安全な場所に変えましょう！

○　*地域安全マップの作り方*

1）　５～７人のグループ(班)に分かれ，学校周辺の地図を見ながら，グループごとに担当地域を決めます。
　グループの班長，副班長，地図係（調査地点の地図への記入），インタビュー係（インタビュー・シートへの記入），写真係（調査地点の撮影）などの役割も決めます。

2）　担当地域に関して，何を調べるのか（調査項目)を，グループのメンバーで話し合います。
　以下が，調査項目の見本ですが，この他にも，図書館やインターネットなどを利用して資料や情報を収集すれば，もっと充実した調査ができるはずです。

▼ 調査項目

① 事件の起こりそうな場所

犯罪者は，被害者に簡単に近づける場所（入りやすい場所）で，周りの人から見つかりにくい場所（見えにくい場所）を選んで，悪いことをしようとしています。つまり，「**入りやすく，見えにくい場所**」が犯罪の起こりやすい場所といえるのです

犯罪者が犯罪に手を染めそうな場所や時間を想像してみてください。自分が犯罪者だったら，と考えるといろいろ思いつくかもしれませんね。例えば，こんな場所や時間はどうでしょうか？

高く長い塀が続く道

壁や塀が続く道では，人目につきにくくなります。家と家の間にある壁も，泥棒が侵入した後，身を隠すのに便利です。

路上駐車の多い道

駐車された車と車の間や，車と建物にはさまれた空間は，犯罪者が隠れたり，待ち伏せしたりする場所に利用されます。

警備員のいない駐車場や駐輪場

暗いし，人もいないので，犯罪者が待ち伏せするのに絶好の場所です。車に乗ったままの人がいたら用心しましょう。

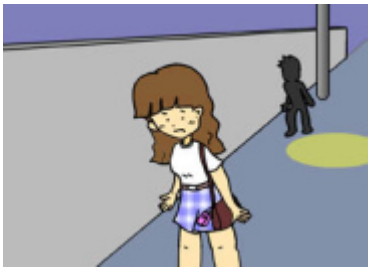
落書きやゴミが散乱している場所

汚れた場所は，住民の無関心さを示すシグナルになるので，犯罪者は，見つかっても誰も通報しないだろうと思い，気軽に犯罪に手を染めてしまいます。

使われていない家や建物

誰も住んでいない家の鍵が壊れていたり，窓が割れていたりすると，犯罪者が侵入して，たまり場になってしまいます。

街灯の少ない道



街灯がぽつんぽつんとしかないと，犯罪者は自分の身を隠しながら，ターゲットの様子をうかがうことができます。街灯の電球が切れたままなのも，住民の無関心さを示すシグナルになり，犯罪者を誘います。

また，歩道と車道が分離していない道，細くこみいった道，幹線道路の一本裏の道などでも，犯罪が起こりやすいのです。

木がうっそうとして見通しの悪い公園

トイレが道から見えにくかったり，大型の遊具が視界をさえぎったりしていると，犯罪者が身を隠しやすくなります。神社やお寺でも同じことがいえます。誰にも見られないと思うと，犯罪者は安心して犯罪を実行します。

防犯カメラや窓のないエレベーター

駅，マンション，公民館などのエレベーターに，窓がなかったり，防犯カメラが設置されていなかったりするとエレベーターは危険な密室になってしまいます。

② 事件から逃れる場所

犯罪にあったときに，助けを求めることができる場所もあります。その場所も確認しておきましょう。例えば，次のところはあなたの味方です。

- 警察署
- 交番，駐在所
- 子ども１１０番の家
- 地域安全推進員の方の家
- 学校，塾
- 友達・親せき・知り合いの家
- 信用できるお店（コンビニ，ファミレス，ガソリンスタンド，病院，銀行，郵便局，新聞販売店など）

いっぱい調べたいことが出てきましたね。実際に調査に出かける前に，それらを整理してチェックリストを作りましょう。そうすれば，調査がとてもやりやすくなります。

3） 調べることが決まったら，それをどうやって調べるのか（調査方法）を，グループのメンバーで話し合います。

① 話し合いの中で出てきた犯罪の起こりそうな場所やインタビューの相手を効率よく見つけるために，地図で実際に歩くルートをだいたいの範囲で決めておく。

② 警察署（生活安全課）や交番，商店街，町内会，役所・役場などの皆さんから話を聞く。犯罪が起こりそうな場所や不安に思っている場所を教えてもらう。

③ 残りは，自分たちの目と感性を信じて，調べるしかありません。

4）　街に出て，これまで考えてきた調査項目と調査方法に従ってフィールドワークを行います。

でも，街に出る前に，必ずリーダーの方との連絡方法について確認しておきましょう。そして，グループごとに行動し，単独行動は避けましょう。何かトラブルが生じたら，すぐにリーダーに連絡してください。

①　実際に場所を見て確認したら，その写真を撮り，その場所を地図に書き込みます。

②　聞かせていただいた内容は，インタビュー・シート（１枚の紙）に書きとめておくことが大切です。

そうしないと，せっかくのお話もすぐに忘れてしまいますよ。

注意事項

①　インタビューするときには，学校で地域安全マップを作製していることをきちんと説明しましょう。

②　お話を詳しく聞く必要がある場合（例えば，警察署訪問）には，事前に約束の連絡をしておきましょう

③　インタビューしたときには，お礼の言葉を忘れないでください。あなたは，あなたの学校を代表してインタビューしていることを忘れないでください。

④　写真に撮るのは公共の物だけです。人間は撮影しないでください。また，物であっても，個人の家や車などを撮影するのは避けてください。常にプライバシーに配慮してください。

5）　教室に戻って，地域安全マップを作製しましょう。

①　１枚の地域安全マップに，調べた内容をすべて盛り込むのは無理なので，地域安全マップはわかりやすく単純に作製し，危険な場所の説明は報告書で行います。

②　報告書には，危険な場所ごとに，地図，写真，インタビュー要約，コメント（分析）を書き込みます。インタビュー・シートには，生の声を記録してあるので，報告書にはそれを要約して書く必要があります。

③　どのようなコメントを載せるか，グループで大いに議論してください。他のグループやリーダーから意見を聞くのも有益かもしれませんね。

④　調査後に，調査結果報告会を開催すると，そこでの意見も参考にして，より高いレベルの地域安全マップを完成することができるでしょう。

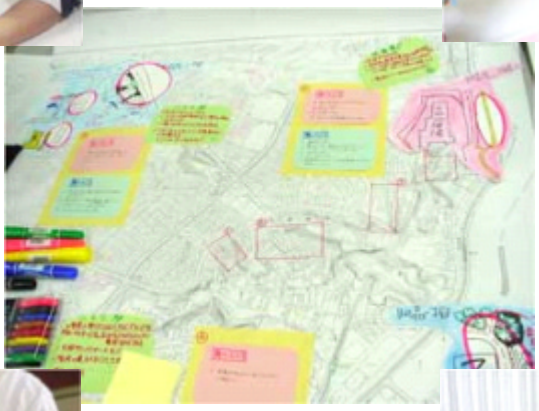
注意事項

① 実際に起こった事件の情報や場所をマップや報告書に記載するのはやめましょう。名前や場所（住所）が特定されてしまうと，さらに被害を受けたり，被害者の心に大きなダメージを与える可能性があるからです。ここでも，プライバシーには十分配慮してください。

② いわゆる「不審者」が出た場所をマップや報告書に記載するのはやめましょう。悪いことをしようとしていた本当の不審者かどうかは子どもでは判断しにくいものです。
誤解で人の心を傷つけてしまうこともあります

③ インタビューした相手についても，名前や報告書に記載するのはやめましょう。「○○警察署の方の話では…」とか「○○商店街の人から聞いたことは…」というように書きましょう。

これで，地域安全マップは完成です！地域の人とふれあい，地域のことをいろいろと知って，自分の住んでいる街が以前よりもずっと好きになったのではありませんか。



〈出典〉文章「危険回避・被害防止トレーニング・テキスト」～小宮信夫監修 横矢真理著
写真「平成１２年度廿日市市阿品・阿品台地区青少年ワークショップ記録」